

佐賀学ブックレット6

佐賀城下にあった 幻の大名庭園——観頤荘

中尾友香梨著 佐賀大学准教授

佐賀藩が幕末に近代化のトップランナーになれた原点はここにあった！



観頤荘図（公益財団法人鍋島報效会蔵）

かつて佐賀城のすぐ西側に広大な大名庭園があったことをご存じでしょうか。庭園は、現在の佐賀市赤松町南部と鬼丸町西部に位置し、総面積はおよそ11万6000平方メートル（約3万5000坪）あったと見られます。

園内には大きな池をはじめ、築山、滝、川、船、太鼓橋、展望台、楼閣、茶屋などが豊富に取り揃えられ、外国の珍しい動物や鳥を飼育する、今日の動物園のような施設もありました。内容・規模のいずれにおいても、近世前期の大名庭園ではトップレベルであったといえます。

そして何より重要なのは、藩校弘道館の前身にあたる聖堂（学問所）が園内に設けられ、佐賀藩が幕末に近代化のトップランナーになるための力を培った原点が、ここにあったということです。



4月発売／A5版／並製／
本文96頁・グラビア4頁
定価（本体：1000円＋税）

（佐賀学ブックレット6）
佐賀城下にあった幻の大名庭園——観頤荘
中尾友香梨著
定価（本体1000＋税） ISBN978-4-86656-024-3